

平和運動フォーラム石狩地域協議会

平和運動フォーラム
石狩地域協議会
〒060-0806
札幌市北区北6西7
村上真仁
TEL:011-747-1880

核も戦争もない平和な21世紀に!

被爆66周年 原水禁世界大会開催

被爆から66周年を迎えた本年、原水禁世界大会は3月に発生した東日本大震災による福島原発の事故を受け、7月31日の福島大会からスタートし、8月11日に今回が初の開催となる沖縄大会により閉幕しました。

放射能のない福島を返せ!
**雨天の中
1700名が結集**

今年大会のスタートとなった福島では、前段に原発のない福島を求める県民集会が開催され、雨天の中の野外集会にも関わらず県内外から多くの参加者が訪れ、被災地の子を持つ母親が、福島の現状を報告し「子どもを守ってほしい」と切実に訴えました。



その後は市内をデモ行進し、「放射能のない福島を返せ!」「子どもたちを守れ!」と力強くシュプレヒコールをあげました。

続いて開催された原水禁世界大会では、引き続き多くの参加者で会場が埋め尽くされ、主催者を代表して挨拶した川野大会実行委員長は『核と人類は共存できない』をスローガンに活動してきた

が、このようなことが起き、自らの反原発の取組みが弱かったことを反省する」と述べました。

集会アピールでは、「もうこれ以上『命』が粗末にされてはならない、ここ福島から声を上げ、大きな行動に結びつけよう!」と宣言され、満場一致で採択されました。

初の沖縄大会

370人が参加、脱原発・脱基地で連帯を確認

福島大会からスタートした原水禁世界大会は、8月4〜9日の広島・長崎大会を経て、沖縄大会が11日、宜野湾市で開催され、370名が参加しました。

冒頭、今回の被災者に対し黙祷が捧げられ、主催者の挨拶では「福島原発は3たび被爆者を作らないという思いを踏みにじった」と厳しく指摘、「福島を最後の被爆地にしなければならぬ。」



一人ひとりが大きく声を上げ、運動を進めよう!」と呼びかけました。

また、米国平和団体からゴッズバーグ事務局長が連帯挨拶として「無駄な軍事予算を指摘、長い時間がかかっても、世界130ヶ国に展開する米軍基地を閉鎖し、福祉や教育にお金をかけるべき。軍事文化を終わりにしなければならぬ」と述べました。

福島から参加した平和フォーラム竹中代表は現地の「土」を持参し、実際の線量計を当ててみせ、その上で毎日生活している人々の現状を訴えました。

最後に「沖縄アピール」として、「持続可能で平和な社会の選択を決定し、一人ひとりの命に寄り添う社会を、政治を実現してい



かなければならない。オキナワから、フクシマ、ヒロシマ、ナガサキをつないで、運動の全国展開を目指す」としています。

「不戦の日」! 8・15北海道集會開催

終戦から66周年を向かえ不戦の日北海道集會が、かでの2・7で開催



され、主催者は、今日、戦争の悲惨さが風化していることを指摘、沖縄の現状などを通して、現在の日本が抱える日米安保の問題などを学習しました。

最後に集会アピールとして、「日本をかつて来た道へと導くことを断じて許さない」運動を連帯して推進することが確認されました。

○事務局だより○

福島で現地市役所の方に話を聞く機会があり「逃げたくても逃げられない」現実を語っておられ、また、子供たちがあまりに無防備で、改めて国や東電の無策さを感じました。(む)